

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21330203

研究課題名(和文) 日米両国教員の相互交流型授業研究による国際理解教育カリキュラムの開発研究

研究課題名(英文) Developing the International Understanding Education Curriculum by Interactively Implementing the Lesson Study with both Teachers in Japan and the United States

研究代表者

小原 友行 (KOBARA, TOMOYUKI)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80127927

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円、(間接経費) 3,660,000円

研究成果の概要(和文)：「体験型海外教育実地研究」を中心とする授業研究を相互交流的に行うことを通して、日米共通教材による国際理解教育カリキュラムを開発することを目的とした本研究の成果は、大きく次の3点である。

第1に、日本・アメリカ文化紹介型、日米文化比較型、相互交流型、以上3つの国際理解学習の教材・カリキュラムを開発し、ウェブサイトを通して発信することができたことである。第2に、グローバル・パートナーシップを推進していくリーダーとなる教員に求められるカリキュラム開発力や実践指導力の向上を図ることができたことである。第3に、グローバル時代の教員養成のためのプログラムの新たなモデルを開発することができたことである。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to develop the international understanding education curriculum with the teaching materials common to both Japan and the United States by interactively implementing the lesson study focusing on "the overseas teaching practicum".

The result obtained in this study is the following three points. First, we have developed the three types of teaching materials and curriculum for international understanding: that is, the type of introducing Japanese and American culture, that of comparing both cultures, and that of enhancing mutual interaction, and put them on the website to ensure a wide use and dissemination of the materials generated. Second, we have improved curriculum development capability and practical teaching competence of young teachers with future leadership who can promote global partnership in schools. Third, we have developed a new model program for training teacher of the global era.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：授業研究 国際理解教育 教師教育 グローバル人材育成

1. 研究開始当初の背景

急速に社会のグローバル化、多文化化が進展している今日、10年後、20年後の学校教育を想定すると、そのような時代に求められる資質・能力の育成を可能にする国際理解教育カリキュラムの開発が必要不可欠である。それと共に、このような変化に適切に対処することができるグローバル・パートナーシップを備えた教師力の向上も急がれる。その両面を同時に実現するための最も有効な方法と考えられるのが、日本と諸外国の教員が相互に連携しながら国際理解教育カリキュラムの開発をめざした相互交流型の授業研究を行っていくことである。

このような課題意識から、研究代表者・連携研究者は、これまでにアメリカ合衆国ノースカロライナ州にあるイーストカロライナ大学のスタッフの協力を得て、幼・小・中・高等学校の教師を対象とした日本とアメリカ合衆国の社会と文化を相互に理解し合うためのカリキュラム開発や、広島大学・大阪教育大学・鳴門教育大学とノースカロライナ州の3大学との共同研究として日米の教師によるグローバル・パートナーシップ・スクールプロジェクトを進めてきた。

そして、それらの経験とネットワークを生かして、2005(平成17)年4月に多様な国際交流・国際協力の活動を展開することを通して、日米両国の教員・学生・児童生徒の相互理解と協力を促進することを目的とした広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センターを創設する(2008年10月には広島大学から研究プロジェクトセンターとして正式に認められる)とともに、2006年7月に日米で教員養成に実績をもつ広島大学・大阪教育大学・鳴門教育大学とノースカロライナ州の3大学(イーストカロライナ大学・ノースカロライナ大学ウィルミントン校・ウェスタンカロライナ

大学)との間でコンソーシアムを締結した。

これらの最大のねらいは、教師および将来教員を目指している学生・大学院生にこれからの時代に求められる資質や能力を身につけた実践的指導力を備えた教員を養成することである。本研究は、このような今日的な教育課題に応えるために開発・試行を行ってきたプログラム「体験型海外教育実地研究」を活用しながら、相互交流型の授業研究を行い、それを通して日米の共通教材による国際理解教育カリキュラムを開発しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル・パートナーシップを備えた日米の教員が国際理解教育をテーマにした「体験型海外教育実地研究」を中心とする授業研究を相互交流的に行うことを通して、日米共通教材による国際理解教育カリキュラムを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

上記の研究目的を実現するために、研究期間内に、具体的には、次の3つの活動を行った。

国際理解教育に関心をもつ日米の教員希望の大学院生、現職派遣の大学院生、現職教員の希望者からなる授業研究グループを組織し、広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センターが開発した毎年9月に実施する「体験型海外教育実地研究」(日本でのアメリカの小・中学生に日米の文化の相互理解を図るための教材研究、アメリカ合衆国の小・中学校での授業観察および英語による授業実践、日本での事後研究による教材の完成とレポート作成)の中で、国際理解を図るための教材の開発を行った。

これらの開発した教材を「体験型海外教育実地研究」の中で実践を行い、教材の修

正・改善を図り，日米共通教材として完成させた。

これらの日米共通教材をスコープとシークエンスの観点から整理して，国際理解教育カリキュラムとして完成させた。またその研究成果を，既に立ち上げているグローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト研究センターのウェブページに日本語・英語で掲載し，情報発信をするとともに成果の普及を行った。

4．研究成果

「体験型海外教育実地研究」を中心とする授業研究を相互交流的に行うことを通して，日米共通教材による国際理解教育カリキュラムを開発することを目的とした本研究の成果は，大きく次の3点である。

第1に，全体で41単元の国際理解教育教材を開発することができたことである。それらを分類すると，「日本・アメリカ文化紹介型」「日米文化比較型」「相互交流型」の大きく3つのタイプの国際理解学習に分けられるが，ウェブサイトを通して発信することができたことである。

第2に，「体験型海外教育実地研究」に参加することを通して，グローバル・パートナーシップを推進していくリーダーとなる教員に求められるカリキュラム開発力や実践指導力の向上を図ることができたことである。参加者の自己変容の振り返りシートからもそのことが読みとれる。

第3に，5年間の試行錯誤の中で，グローバル時代の教員養成のためのプログラムの新たなモデルを開発することができたことである。

以上のような5年間の研究の成果として，最終的には下記のような目次の研究成果報告書の作成を行った。

研究の概要

1 研究題目

2 研究経費

3 研究組織

4 研究の目的と方法

5 研究の特質と意義

6 研究の経過

第1年次の研究内容（2009年度）

- 1 第3学年 総合 Let's enjoy HinaMatsuri!
- 2 第3学年 異文化交流 三文字熟語で表現しよう
- 3 第4学年 学級活動 Classroom Activity: What is your treasure?
- 4 第5学年 異文化理解 What are there events?
- 5 第6学年 異文化理解教育 Let's make onomatopoeia!
- 6 第8学年 体育 SAMURAI Mind

第2年次の研究内容（2010年度）

- 1 第2学年 異文化理解 Wish on a ORIZURU
- 2 第3学年 図画工作科 Ukiyoe which connects the world
- 3 第4学年 異文化理解 Let's enjoy Mihara Daruma!
- 4 第4学年 異文化交流 Let's play "Hanetsuki"!!
- 5 第5学年 異文化理解 Let's enjoy "MAKURANO-SOUSHI"
- 6 第5学年 国語科 Let's Enjoy Old Japanese Tales!!
- 7 第5学年 異文化理解 A Stamp as a small cultural ambassador which connects you and me
- 8 第8学年 社会科 Make the Crossword Puzzle

第3年次の研究内容（2011年度）

- 1 第4学年 音楽科 Listening to the Japanese tune, and applying the title to it

- 2 第4学年 異文化交流 Let's enjoy FUROSHIKI!!
- 3 第5学年 社会科 What image is your country?
- 4 第5学年 社会科 Globalization through MacDonald
- 5 第6学年 異文化理解 Let's make original Karuta and play it!
- 6 第7学年 社会科 Sustainable Transportation Network for a City(ESD)
第4年次の研究内容(2012年度)
- 1 第3学年 異文化理解 Let's Enjoy UCHIWA!
- 2 第4学年 社会科 Simpson's family and Isono's family
- 3 第5学年 異文化理解 Let's compare Japanese Heroes and American Heroes
- 4 第5学年 社会科 Let's study from money
- 5 第6学年 異文化理解 Write our first name in KATAKANA
- 6 第8学年 異文化理解 Let's compare American and Japanese Events
第5年次の研究内容(2013年度)
- 1 幼稚園 異文化理解 A Wish in TANABATA
- 2 第2学年 音楽科 Let's sing WARABEUTA together!
- 3 第2学年 異文化理解 Let's make a decoration of the Halloween with origami!
- 4 第3学年 異文化理解 Let's play the Japanese MENKO game
- 5 第4学年 異文化理解 Let's hold "Yuru-chara" contest in Greenville!
- 6 第4学年 異文化理解 Names of Traditional Colors ~ My color, Our

colors ~

- 7 第4学年 異文化理解 Let's study kanji!
- 8 第5学年 異文化理解 Let's study from Japanese sweets!
- 9 第5学年 異文化理解 Kendo
- 10 第5学年 異文化理解 Original Box Lunch
- 11 第6学年 異文化理解 Your familiar thing changes into Japanese Monster !?!
- 12 第6学年 異文化理解 What is "MOTTAINAI"?
- 13 第8学年 異文化理解 Let's make your original HANKO
- 14 第8学年 異文化理解 Put your heart into the character! ~ SHODO spirits ~
- 15 第8学年 異文化理解 Think Global, Act Local
研究成果と今後の課題
- 1 5年間の研究成果
- 2 今後の課題

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10件)

小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人・松宮奈賀子ほか、「大学院生によるアメリカの小中学校における体験型海外教育実地研究」, 広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第20巻, 査読無, 2014.3, 161-181
小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人・松宮奈賀子, 「日米相互交流型授業研究による『体験型海外教育実地研究』を取り入れた教員養成プログラムの教育的効果に関する調査研究」, 広島大学大学院教育学研究科『共同研究プロジェクト報告書』第

12 卷，査読無，2014.3，1-16

小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人・松宮奈賀子ほか，「大学院生によるアメリカの小中学校における体験型海外教育実地研究」，広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第19巻 査読無 2013.3 259-270

松浦武人・小原友行・深澤清治・朝倉淳・松宮奈賀子，「社会のグローバル化に対応する教員養成システムにおける相互交流型プログラムの開発研究」，広島大学大学院教育学研究科『共同研究プロジェクト報告書』第11巻，査読無，2013.3，1-11

小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人・松宮奈賀子ほか，「大学院生によるアメリカの小中学校における体験型海外教育実地研究」，広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第18巻 査読無 2012.3 129-140

朝倉淳・小原友行・深澤清治・松浦武人・松宮奈賀子，「国際化社会に対応する教員養成に関する研究」，広島大学大学院教育学研究科『共同研究プロジェクト報告書』第10巻，査読無，2012.3，1-10

小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人・松宮奈賀子ほか，「大学院生によるアメリカの小中学校での体験型海外教育実地研究」，広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第17巻，査読無，2011.3，155-168

朝倉淳・小原友行・深澤清治・松浦武人・松宮奈賀子，「国際化社会に対応する教師教育・教員養成のための教職国際化プログラムに関する基礎的研究」，広島大学大学院教育学研究科『共同研究プロジェクト報告書』第9巻，査読無，2011.3，1-10

小原友行・深澤清治・朝倉淳・松浦武人ほか，「大学院生によるアメリカの小中学校での体験型海外教育実地研究」，広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合セ

ンター編『学校教育実践学研究』第16巻，査読無，2010.3，95-104

朝倉淳・小原友行・深澤清治・松浦武人，「国際化社会に対応する教師教育・教員養成のための教職国際化プログラムの開発研究」，広島大学大学院教育学研究科『共同研究プロジェクト報告書』第8巻，査読無，2010.3，33-40

〔図書〕(計 1件)

小原友行，『日米両国教員の相互交流型授業研究による国際理解教育カリキュラムの開発研究』(研究成果報告書)，広島大学大学院教育学研究科，2014.3，267

〔その他〕

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/gpsc/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小原 友行 (KOBARA TOMOYUKI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：80127927

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

深澤 清治 (FUKAZAWA SEIJI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：00144791

朝倉 淳 (ASAKURA ATSUSHI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：70304384

神山 貴弥 (KOUYAMA TAKAYA)
同志社大学・心理学部・教授
研究者番号：00263658

松浦 武人 (MATSUURA TAKETO)
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70457274

松宮奈賀子 (MATSUMIYA NAGAKO)
広島大学・大学院教育学研究科・講師
研究者番号：70342326